

## IDF World Diabetes Congress 2025 参加レポート - 若手の視点から -

三井 絵里花 会員  
(埼玉医科大学 内分泌内科・糖尿病内科)

### 1. 参加学会

IDF World Diabetes Congress 2025

<https://idf2025.org/>

2025年4月7日~4月10日 バンコク(タイ)



### 2. 参加の目的

- 学会での活動目標:  
日本の糖尿病診療について国際的に発信すること。海外における糖尿病治療戦略や医療システムを学ぶこと。
- ブース担当としての役割:  
ブースを訪問してくださった方からの質問に対応すること。日本の糖尿病診療や日本の医療システム、医学教育システムについて発信すること。
- ブース担当としての期待事項:  
他の国の方との交流を深め、糖尿病診療におけるポイントについてディスカッションをすること。

### 3. 学会参加の体験

- 学会でのブース活動内容:  
日本の糖尿病の有病率や、日本人の糖尿病の特徴、また日本の糖尿病治療におけるガイドラインや使用できるデバイスについてなどについての質問が多くございました。また、日本の保険診療システムや1型糖尿病患者への支援、医学教育など幅広いジャンルのご質問をいただきました。
- 参加前の準備:  
スタッフ間での事前ミーティングや当日掲載される資料内容の確認、また過去に参加された先生方のレポートや過去に受けた質問を確認し、それに対しての情報検索や回答作成を行いました。
- 特に印象に残ったセッションや研究発表:  
CGMについて興味があり、CGMの使用がもたらす血糖降下およびCGMを使用することによる医療費削減についてのディスカッションが大変興味深かったです。また、パキスタンにおける医療過疎地域に対するオンライン診療や1型糖尿病患者への教育や治療支援についての発表があり、医療アクセスが悪いからこそ発展するサービスやサポート支援制度の手厚さに驚くとともに日本においても医療アクセスが悪い地域に取り入れられる取り組みなのではないかと印象に残りました。



- 海外参加者との交流やネットワーキングの様子：  
企業ブースでたまたま一緒させていただいた参加者の方と 1 型糖尿病診療やサポート体制についてディスカッションをする場面があり、そこからご縁が広がりました。また、他の国において糖尿病に関する研究をされている先生とも交流をする機会があり、情報交換をするなど研究分野においてもさらにネットワークが広がりました。
- ブースに訪れた方々との会話内容やディスカッションのポイント：  
予想以上の多くの国や地域の方が日本のブースを訪れてくださり、医療に関する質問のみならず日本糖尿病学会についてのご質問も多くいただきました。次回の学術集会へ参加を希望される方も多くいらっしゃり、また日本のガイドラインについても興味を持って下さる方が多く、それに対応することができるよう潤沢に資料を準備し、内容を把握しておく必要があると感じました。また、日本における糖尿病患者の特性や治療の特徴についても十分に把握する必要があると感じました。

#### 4. 学んだこと・成果

- 学会で得られた新しい知見：  
海外では患者向けの糖尿病資料が充実しており、またアプリケーションなどの開発も進んでいると感じました。
- ブース担当を通じて感じた JDS のプレゼンス向上のための改善点：  
日本の学会参加にあたり英語プログラムの有無や他言語への対応についての質問も多くあり、今後学術集会における海外からの参加希望者に対応し、日本の糖尿病診療について世界へ発信するためにも他言語への対応を充実させていくことの必要性を強く感じました。

#### 5. 今後の抱負

- 今後の研究や学会活動に対する意欲：  
海外での学会参加を通じて、日本の糖尿病診療について俯瞰することができ、新しい考えや知見を得ることができまさに世界が広がりました。今後さらに視野を広げるためにも積極的に海外の学会への参加や英語論文の作成にも取り組んでいきたいと思いました。
- 次世代へのアドバイスや提案：  
海外の学会では非常にフランクに参加者同士が交流することができ、さまざまな方と気軽にディスカッションを行い新しい世界を知ることができる非常に良い機会であると感じました。海外学会に参加することでより自身の視野が広がり、日々の診療や研究の一助になると考えますので、ぜひ積極的に海外学会へご参加いただけたらと思います。



#### 6. その他

- 今回初めての海外学会の参加となりましたが、海外学会の規模の大きさや内容の多様性に非常に驚きました。様々な国が集まり、ディスカッションをすることでこれまで知ることができなかった知見やシステムをしることができ、これまでが井の中の蛙であったかを強く感じ、新しい世界を知ることの

喜びを強く感じました。また、海外の医療システムや最新の知見を学ぶことにより、日本にはない視点や意見を学ぶことができ、日常診療において新しい目標もできました。さらに、若手医師が海外の学会に参加することで新しい発見や知見が増え、日本の医療もますます発展していくのではないかと期待も持つことができました。今回このような素晴らしい機会を与えてくださった日本糖尿病学会および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、このような素晴らしい機会がこの先も続き、多くの若手医師が海外の学会へ参加する機会を得ることができることを切に願っております。

## IDF World Diabetes Congress 2025 参加レポート - 若手の視点から -

西影 星二 会員  
(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学部門)



### 1. 参加学会

IDF World Diabetes Congress 2025

<https://idf2025.org/>

2025年4月7日~4月10日 バンコク(タイ)



### 2. 参加の目的

- 学会での活動目標:  
自身の研究および臨床に活かせる最新の科学的知見を得ること。また、国際的な糖尿病治療の現状や課題、特に1型糖尿病治療に関する他国の状況を学ぶこと。
- ブース担当としての役割:  
日本糖尿病学会(JDS)のブーススタッフとして、日本の糖尿病治療の特徴や取り組みを国際的に発信し、海外からの関心や質問に対応すること。
- ブース担当としての期待事項:  
様々な国の方と交流することでグローバルスタンダードを知ること、さらに国外の研究者や組織との情報交換を通じて国際交流を深め、研究活動のネットワークを広げること。

### 3. 学会参加の体験

- 学会でのブース活動内容:  
30ヶ国以上の参加者がJDSブースを訪問し、日本の糖尿病治療やケアシステムに関する質問が多く寄せられました。特に1型糖尿病患者への対応、CGMの活用状況、保険システム、予防医療や糖尿病教育に関する質問が多く、日本に対する関心や、日本の医療システムに対する海外の関心の高さを強く感じました。
- 参加前の準備:  
事務局の方に事前に資料をいただき準備を進めました。オンラインでのミーティングで概要・日程・体制の確認、ブース用資料の確認、前回のEASDでのブースで質問された内容の共有、想定される質問の確認、移動手段などの確認を行いました。JDS事務局からいただいた資料に加えて、日本糖尿病学会の活動、日本糖尿病協会の活動、日本での災害時対応、自身が行っている臨床研究成果の説明やJ-DREAMSについて、想定される質問に回答できるよう準備しました。



- 特に印象に残ったセッションや研究発表:

自身の研究テーマでもある1型糖尿病やCGMの世界的第一人者であるBattelino教授の講演を聞くことを楽しみにしていました。Battelino教授のCGMを用いた診断予測領域の話は、まさに自身の研究テーマと重なる部分であり特に印象深かったです。また、日本では遅れを取っている1型糖尿病の発症遅延・予防に関するシンポジウムが非常に勉強になりました。各国の研究者がStage1・2の1型糖尿病のスクリーニングや発症予防の議論を活発にしており、自分自身も成人内分泌内科医と小児内分泌内科医の連携の重要性について質問することができました。

- 海外参加者との交流やネットワーキングの様子:

同年代の海外の若手研究者やIDF-WPRに貢献している若手研究者とも交流でき、大きな刺激となりました。国際的水準での研究や協力体制構築の重要性を認識しました。

#### 4. 学んだこと・成果

- 学会で得られた新しい知見:

1型糖尿病の予防的介入やCGMを活用した自己管理支援など、世界の最新トレンドや研究成果を学ぶことができました。

- 今後の研究に活かせること:

自身は肥満患者へのCGM装着の効果を見るランダム化比較試験を実施しましたが、世界的にもCGMを幅広い対象者に使用する研究が進んでおり、今後の研究展開に有益な知見を得ました。

- JDSプレゼンス向上の改善点:

JDSの年次学術集会に参加してみたいという希望が数多くありましたが、プレゼンテーションは基本的に日本語であることを伝えると落胆されていました。日本の取り組みを効果的に発信するため、英語のセッションを増やす必要性を感じました。また、災害対応や予防医療、医療体制など日本の優れたシステムや取り組みの具体的事例を整理し、海外向け資料の充実を図ることが必要だと感じました。



#### 5. 今後の抱負

- 今後の研究や学会活動に対する意欲:

今回の国際学会参加を通じて得た刺激を糧に、さらに世界に向けて研究成果を積極的に発信していきたいと考えています。また、日本が国際社会の中でリーダーシップをとり、海外に発信し国際社会に貢献していきたいと考えています。JDSの活動に積極的に貢献し、国際的な存在感を高めるために尽力したいと考えています。

- 次世代へのアドバイスや提案:

日本だけに目を向けるのではなく、国際学会に参加し、直接海外の医療従事者や研究者と接することでグローバルスタンダードが見えてくると思います。若手医師・研究者に積極的な国際学会参加を推奨し、国際交流を通じて視野を広げ、グローバルな視点を持つ研究者育成が重要であると感じました。

## 6. その他

- 海外での学会参加は、2023年にADAで発表した時以来2回目でした。IDFは全世界から非常に多くの国の参加者がいらっしやり、また、ブース担当をさせていただけたことで、学会で発表しただけでは交流できない方々と多く交流することができました。若手研究者にとって、研究費の削減や、円安、物価の高騰により海外への渡航や学会参加、留学が以前よりもハードルが高くなっている現状、今回のブーススタッフとして海外学会に参加する貴重な機会をいただけたことは本当に光栄で得難い経験でした。多くの国の方と交流することで、国際的視野が広がり、国際社会の中で貢献できるような活動を今後もっとしていきたいという意欲が強まりました。本参加を支援してくださった日本糖尿病学会とJDS事務局や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。特に、渡航前のサポートから実際にJDSブースでの対応の際にお世話になったJDS事務局の皆様に感謝申し上げます。今回の貴重な経験を今後の研究活動に活かし、JDSのさらなる発展に貢献していきたいと思えます。

## 日本糖尿病学会 国際交流委員会

### IDF 2025 Global Village ブース出展報告書

作成日：2025年4月14日

出張者：事務局 堀、金子

#### ◆ スケジュール

出展先：International Diabetes Federation World Diabetes Congress 2025 in Bangkok, Thailand

設営日：2025年4月7日（月）

公開日：2025年4月8日（火）～10日（木）10:00～17:00 ※最終日16:00まで

会場：ブース番号 EE11, Global Village, Exhibition Hall

Presidential Tour：4月8日（火）11:00～



#### ◆ 掲示物

ポスター	学会活動紹介（4枚組） 第68回年次学術集会
配布物	学会活動紹介リーフレット 第68回年次学術集会チラシ 英文誌チラシ 英文論文別刷り2種、見本本 英語 inquiry 用ビジネスカード (各約50部、全て英語版)
ノベルティ	DIクリアファイル（富士山柄）、折り紙
その他展示	IDF Western Pacific Region 旗（新・旧2種）
Four posters are displayed. From left to right: 1. "The Japan Diabetes Society" poster with a circular diagram of "Goals of Diabetes Care". 2. "The 68th Annual Meeting of the Japan Diabetes Society in OKAYAMA" poster with a bridge image. 3. "DIABETOLOGY INTERNATIONAL" poster with a circular diagram showing "1.3" and "2.1". 4. Another "DIABETOLOGY INTERNATIONAL" poster with a blue and white design.	

#### ◆ 担当者

事務局員2名、会員からの公募担当者2名

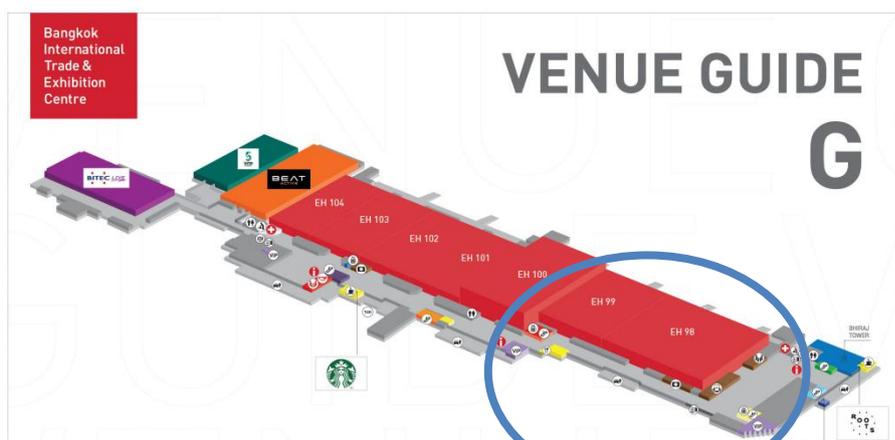
### ◆ ブース担当者の公募

若手会員の海外学会参加支援策として、日本糖尿病学会（以下 JDS）の理事・監事の推薦にてブース担当要員を募集した。3名の応募があり、以下の2名が選出された。JDS から旅費・大会参加費の支援を行い、学会のブース駐在担当をしながら学会に参加した。

三井 絵里花会員	埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科 専攻医
西影 星二会員	神戸大学大学院医学研究科内科学講座 糖尿病・内分泌・総合内科学分野 糖尿病・内分泌内科学部門 博士研究員

### ◆ ブースについて

IDF 所属団体のブースはエキシビションホール（企業展示、ポスター、スポットライトステージなどのエリア）の中心に Global Village として設置され、計 95 団体のブースが設置された。本学会のブースは IDF 本部のブースの正面、Global Village 中心に位置し、出入りの多い位置にあった。



日本糖尿病学会ブース



◆ 展示・配布物への反応

- 学会活動・日本の糖尿病の状況など General な情報をまとめた資料をポスター・ハンドアウトとしてそれぞれ作成し、メイン資料として質疑応答に使用した。
- IDF は患者団体の加盟も多いことから、研究よりも前述の学会活動・日本の糖尿病の状況・予防など、より General な情報への反応が高かった。
- ネットワーキングのための団体同士のコミュニケーションも活発であり、どの加盟団体も来訪者へのプチギフトを用意していた。本会は折り鶴を展示し、時には「願いの鶴」として来訪者と一緒に折り、プレゼントした。
- 日本は IDF Western Pacific Region (WPR/西太平洋地域)の議長国(議長:門脇孝理事)であったため、WPR 旗を併せて展示した。



◆ 来訪者について

- 3日間を通して絶えず来訪者があった。
- 1日目の午前中は特に一般参加者に加え周辺の展示団体同士で来訪があり、大変混雑した。
- 確認できた来訪者の国籍は下記の通り。

アジア	インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、日本
中東	アゼルバイジャン、イラク、クウェート、トルコ、ウズベキスタン
アフリカ	エスワティニ、エチオピア、コンゴ、ボツワナ、マダガスカル、レソト、南アフリカ
ヨーロッパ	アイスランド、ギリシャ、ジョージア、ドイツ、ベルギー、モルドバ、ラトビア、北マケドニア
北アメリカ・中米	アメリカ、ニカラグア
オセアニア	オーストラリア、トンガ

◆ ブース来訪者数(日別)

- 4月8日:約100名
- 4月9日:約40名
- 4月10日:約40名

## ◆ 来訪者からの主な質問

### 【学会・学術集会】

- 本年・来年の年次学術集会の時期と場所
- 英語のプログラムはあるか
- 本年の学術集会の開催地である岡山にはどのように行けばよいか
- 学術集会は非会員・外国人でも参加できるか
- JDS には外国人も入会できるか
- 海外参加者へのトラベルグラントはあるか

### 【ガイドライン・学会誌・研究など】

- 最新のガイドラインがあれば知りたい
- 最新版の学会誌は閲覧できるか、無料で閲覧できるか
- 栄養に関する冊子はないか（栄養士からの質問）

### 【日本の糖尿病に関する情報】

- 日本の糖尿病の予防方法
- なぜ太っていなくても 2 型糖尿病になるのか
- 日本の糖尿病の患者数、1 型と 2 型の割合
- 日本の糖尿病での特殊な治療（special な治療）はあるか
- 食事療法について、JDS はどのような活動をしているか
- 患者へのメンタルヘルス治療はどんなことが一般的か
- 日本の糖尿病治療戦略（ストラテジー）
- 合併症の発症率
- 日本の糖尿病を持つ人の平均寿命と、糖尿病がない人の平均寿命の差

### 【デバイス・治療・保険・制度など】

- 日本の 1 型糖尿病が使用できるデバイスはどんなものがあるか
- 日本で使用できるインスリンポンプの種類と、自費か保険か
- 日本で使用できる CGM の種類と普及率（都市部と地方の差、自費負担額）
- 日本で使用できるインスリンの種類
- 経鼻インスリンは使用できるか
- 日本では糖尿病を持つ人へのインスリン供給は政府から行われているか
- 1 型糖尿病の保険制度（どのくらい保険でカバーされるか、年収による差）
- 日本の保険制度はどのようなものか

### 【スティグマ・患者会など】

- 日本の1型糖尿病のスティグマ環境は変化しているか
- 日本の1型の子どもの人数はどのくらいか
- JDSはどんな患者活動をしているか・患者会とどのような関わりがあるか
- 日本の患者会はどのような活動をしているか・メジャーな活動

#### 【医師の教育・資格・制度など】

- 糖尿病を専門とする医師は甲状腺や内分泌疾患も診るのか
- 日本の医師の Basic degree は何か
- 日本の医療系大学の卒業までのシステムはどんなものか
- 日本の研修期間 (residency) は何年か
- 日本の医療系の大学は何校あるか (約 90 校 ※正確には 82 校)
- 日本の専門医の制度について
- 日本での糖尿病専門医を取るまでの期間

#### 【国際連携・協力など】

- コンゴの若手糖尿病医師向けオンライン学習コンテンツはないか
- 教育プログラムで海外の人が閲覧できるものはないか (日本語以外はないか)
- IDF の若手リーダーを募集中
- JDS から若手支援 (リソースや知識の共有) は可能か
- 日本へ交換留学できるか

#### 【その他】

- 日本の平均寿命
- 日本の平均結婚年齢

#### ◆ その他

- IDFには患者団体の加盟も多く、口頭にてJADEC (糖尿病協会) などとの協力体制についても説明する機会が多かった。糖尿病を持つ人や一般社会への活動について資料に取り入れる必要がある。
- 一昨年より導入している法被はアイキャッチが非常に高く、他団体においても民族衣装 (上着やスカーフなど) を着用している団体もあった。
- 学会の活動紹介、糖尿病学全般を含めて公募したブース担当の若手会員 (臨床研究・基礎研究の各 2 名) が主に来訪者の対応をした。今後もブースにおいて、若手会員の活躍が期待できる。
- ブース担当の若手会員は、事前に打ち合わせや資料共有を実施し、学会活動の知

識を深めたうえで参加した。

- 若手会員の担当時間を考慮し、事務局員の人員配置・滞在日程を軽減した。(経費削減)

◆ 今後に向けて

- 日本人の参加者が少ない印象があった。海外学会への参加支援施策や、開催の広報活動を継続する。
- 学会活動紹介資料は、用意した 70 部が 2 日目で配布終了したため、増版が必要。
- 年次学術集会の開催情報は直近のみではなく 2 年後まで情報があるとよい。
- 人員配置、滞在日程の見直しで引き続き滞在経費の最適化を図る。

以上